

研究実施のお知らせ

研究課題名：高齢者頭部外傷における Talk and deteriorate の危険因子解析

研究期間：仙台市立病院倫理審査委員会承認日～令和2年10月31日

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

2014年1月1日～2019年10月31日に、当院で頭部外傷により入院し治療を受けられた受傷時年齢65歳以上の方。

【研究の目的と意義】

近年、高齢者頭部外傷例では遅発性悪化（Talk and deteriorate）が転帰不良の原因のひとつであることがわかってきました。しかし、遅発性悪化がどのような場合に起こりやすいかわかっていません。本研究では、過去に当院に入院・治療された高齢者頭部外傷の患者様の情報を用いて調査を行い、血液・生化学検査や血液凝固指標などの検査データのうち、どの値が遅発性悪化を反映しているかを明らかにし、高齢者頭部外傷の転帰改善に役立てたいと考えています。

【研究の方法】

患者様の診療録から入院時の状態や血液検査などの情報を収集し、患者様の状態や治療法によって、患者様の転帰がどのように異なるかを解析します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報（年齢・性別・受傷機転・画像診断所見・受傷前抗血栓薬の内服状況、血液凝固指標、血液生化学検査所見、6ヶ月後の転帰）を研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【研究の実施体制】

研究代表者：

仙台市立病院脳神経外科部長 刈部 博

研究協力者：

仙台市立病院脳神経外科医長 成澤あゆみ

仙台市立病院脳神経外科医員 西澤 威人

【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院脳神経外科部長 刈部 博

仙台市太白区あすと長町一丁目1番1号

電話：022-308-7111（代表）